



一冊の本『友だち幻想』(菅野仁)

校長 三村 孝志

4月19日に新発田市生涯学習センターで、新発田市転入教職員面識会がありました。川東中学校に転入された先生方と参加してきました。

二階堂馨市長が、激励の言葉を話されました。いろいろ話されたのですが、「世界一受けたい授業」というテレビ番組で、芥川賞作家で、芸人の又吉直樹さんが『友だち幻想』という新書を紹介していたこと知りました。著者は菅野仁さん、社会学者です。残念ながら、その番組は見えていませんでしたが、菅野さんの本は十年ほど前に読んでおり、感銘を受けたことを思い出しました。

内容の一部を紹介してみます。

1 大人になること

みなさんは、大人になるとはどういうことかと問われたら何と答えるでしょうか。20歳以上になること、結婚していること、就職していること。他にもいろいろあるでしょう。菅野さんは、「経済的自立」と「精神的自立」を、よく言われることとしてあげています。確かにそうです。「自立」は、大人であること条件でしょう。また、「自分の欲求のコントロール」と「自分の行いに対する責任の意識」とが「精神的自立」の重要な構成要素だと思っていると述べています。自分の欲求が満たされないため泣き叫んだり、自分に責任があるにもかかわらず「私が悪いんじゃない」と言ったりする人は、子どもっぽい感じがします。

菅野さんは、この二つだけではなく「人間関係の引き受け方の成熟度」も重要な構成要素だとしています。

それは、親しい人たちとの関係や公的組織などで、ある役割を与えられた中で、それなりにきちんとした態度をとり、他者と折り合いをつけながら、つながりを作っていけることだと思います。

ここで、「他者と折り合いをつけながら」という含蓄のある言い方がされていることに注意してください。適度な距離を取りながら、むやみにぶつかったりせず、人間関係を調整できる能力が大事なのだと思われます。

2 大人になるために必要だが、学校では教えないこと

さて、「大人になるために必要だが、学校では教えないこと」とは何でしょうか。菅野さんの言うところを聞いてみましょう。

一つは「気の合わない人間とも並存しなければならない」ことであり、もう一つは「君にはこういう限界がある」ということです。若いみなさんに「挫折」や「限界」という言葉を、そのまま伝えることは避けたいと感じます。人間には限界があるのだからという理屈を、自分が努力しない言い訳にしてしまうかもしれないからです。とはいえ、菅野さんも言うように挫折のない人生はあり得ません(証明のしようがないのですが、一応こうっておきます)。学校では、どうしても「人間には無限の可能性がある」というメッセージを強く発信しがちであることは、菅野さんの指摘の通りです。「人間には無限の可能性がある」は「人間には無限の可能性はない」とセットになって真理となります。日本も、他の国と同様に競争社会であり、評価社会です。競争があるということは、必ず勝者と敗者が出るということです。全員が勝者となることは、あり得ません。それは競争でない。敗者になったとき、その挫折を生きる糧として生かせるかどうかが肝心なのだろうと思います。

『友だち幻想』は、若いみなさんが自分の考えを深めるために、とても役立つ新書だと思います。ぜひ、読んでみてください。